



博報堂生活総合研究所 生活者にきいた“2019年 生活気分”を発表

● 2019年の景気予想は、「悪くなる」が増加

主な理由は「消費税率アップ」「好景気の実感のなさ」

● 来年始めたいこと、男は【金かせぎ】、女は【体みがき】

男女差の特徴：男性は「副業」「投資・資産運用」、女性は「ダイエット・食事制限」「運動・体操・筋トレ」

博報堂生活総合研究所は、2015年から毎年秋に翌年の景況感などについて、全国の20～69歳男女3,900人に予想してもらう調査を実施しています。このたび最新の調査を加え、“2019年 生活気分”としてまとめました。

分析結果からは、生活者の景況感が、2016～2018年予想では改善に向かっていたのに対し、2019年予想で悪化に転じたことがわかりました。こうした状況を前提に、来年始めたいこととして男性は【金かせぎ】、女性は【体みがき】を挙げ、その一方で無駄や無理はやめなど、暮らしを自力で安定させようとする生活者の思いもみえてきました。

“2019年 生活気分”調査のポイント

2019年の景況感

景気予想は「悪くなる」が増加。理由は「消費税率アップ」「好景気の実感のなさ」

- ・「世の中の景気」が「悪くなる」との予想は、2016～2018年まで減少傾向でしたが、2019年は増加に転じました。「変わらない」が過半数を占めている状況は調査開始から同じです。生活者は明確な景気悪化は感じていないものの、悪化の兆しを察しはじめています。「悪くなる」予想の理由としては、「消費税率アップ」や「好景気の実感のなさ」が多く挙げられています。
- ・同様に、「自分の家計」予想も「悪くなる」が増加。「悪くなる」予想の理由は「収入額が増加しない・減少」がトップでした。

2019年
世の中の変化度

世の中の変化が来年「多くなる」が優勢。変化内容は「異常気象・災害」がトップ

- ・来年、世の中のことでは「変わった」と感じるものが、今年と比べて「多くなる」と予想した人が28.4%で、「少なくなる」の4.9%を大きく上回りました。
- ・「多くなる」と答えた人に、何に関する変化なのかを自由回答してもらうと、1位に「異常気象・災害」が挙がりました。続いて、2位「新元号・平成の終わり」、3位「消費税などの増税」、4位「東京オリンピック・パラリンピックに向けた人や街の活気」となりました。

2019年の
始めたい/やめたいこと

来年始めたいこと、男は【金かせぎ】、女は【体みがき】

- ・2019年に「思い切って始めたいことがある」と答えた人は30.8%で、「思い切ってやめたいことがある」の20.6%を上回りました。
- ・来年始めたいこととしては、「運動・体操・筋トレ」「貯蓄」「趣味・習い事」が上位に挙がりました。男女差が大きい項目に着目すると、男性は「副業」「投資・資産運用」といった【金かせぎ】、女性は「ダイエット・食事制限」「運動・体操・筋トレ」といった【体みがき】に向かっています。いずれも生活していくための自力を高めたいという願望がうかがえます。
- ・来年思い切ってやめたいことでは、「無駄遣い・衝動買い」「食べ過ぎ・飲み過ぎ」「無理しての人付き合い」が上位で、特に女性で顕著。無駄や無理をなくして合理的に暮らしたいと感じているようです。

2019年の
イベント参加意欲

「初詣」「花火大会」がトップ2。来年増える可能性では「自分へのご褒美旅行」が有力

- ・2019年に参加したいイベントでは、「初詣」(36.9%)、「花火大会」(30.2%)がトップ2です。
- ・2019年参加意向と2018年参加経験の差を、来年参加が増える可能性と捉えたと、上位は「自分へのご褒美旅行」「花火大会」「フードイベント」となります。非日常性と五感での体感性の高いイベントに生活者が惹かれているようです。

新元号案にみる
ポスト平成への期待・願い

生活者の期待・願いは、「安らかになる」「平和になる」といった世を鎮める方向に

- ・生活者の新元号案は、「平和」「希望」「新生」がトップ3となりました。
- ・新元号案を意味の近さでまとめると、1位・2位は「安らかになる」「平和になる」という世を鎮める方向の期待・願いとなりました。3位～7位には、「希望が持てる」「生まれ変わる」のように、より積極的に希望や明るさを求める方向のものが並びます。

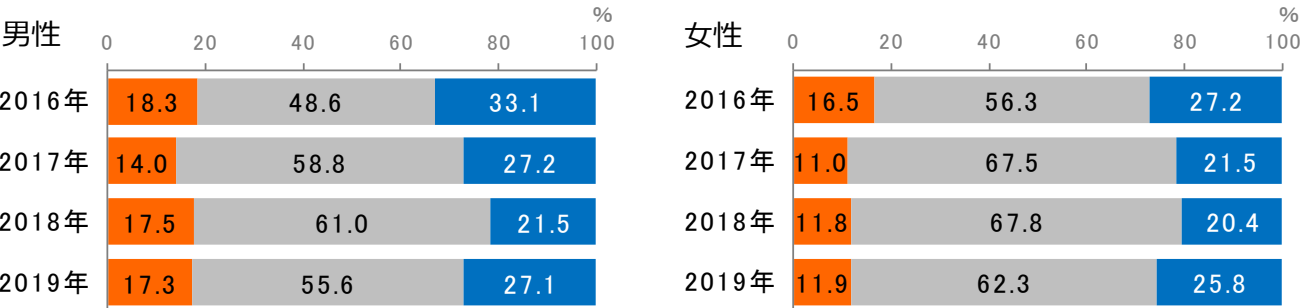
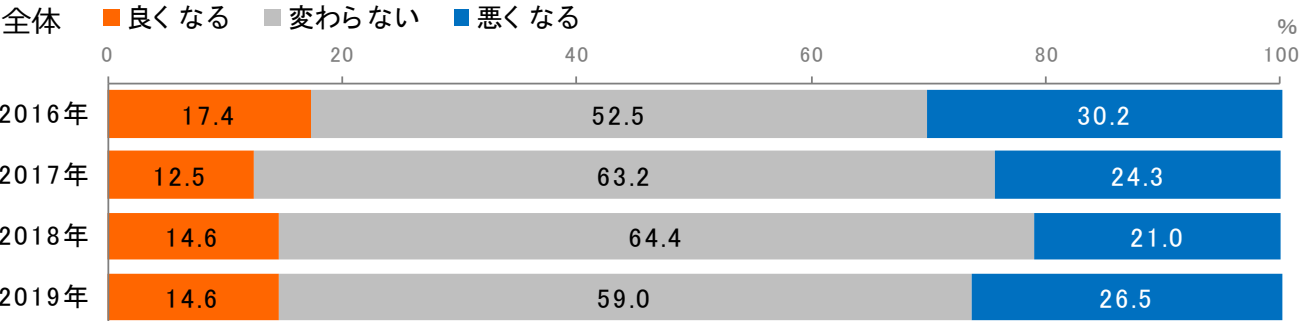
「世の中の景気」予想は「悪くなる」が増加。理由は「消費税率アップ」「好景気の実感のなさ」

- 「世の中の景気」が「悪くなる」との予想は、2016～2018年まで減少傾向でしたが、2019年は前回より5.5pt増加に転じました。「変わらない」が過半数を占めている状況は調査開始から同じです。生活者は明確な景気悪化は感じていないものの、悪化の兆しを察しはじめています。
- 「悪くなる」の予想理由の1位は「消費税率アップ」で4割の人が挙げており、現時点から懸念している生活者が多いことがわかります。2位には「好景気の実感のなさ」が続きます。
- 「良くなる」の予想理由の1位は「東京オリンピック・パラリンピックに向けた都市開発や消費の活況」、2位は「希望的観測」でした。

来年の「世の中の景気」予想

Q 来年の「世の中の景気」は、今年と比べてどうなと思いますか(単一回答)

※西暦は毎年秋に予想してもらう来年のこと。例えば、「2019年」の数値は今年(2018年の秋)に調査した、来年(2019年)の予想を表します。



「良くなる」と思う理由

※自由回答を集計したトップ5、%は「良くなる」と回答した人ベースで算出 (全体568人 男性335人 女性233人)

	全体	男性	女性	男一女	理由の具体例
1位 東京オリンピック・パラリンピックに向けた都市開発や消費の活況	29.0	29.9	27.9	+2.0	オリンピックの開催に向けて訪日客が増えそうだから(男性23歳・石川県) オリンピック関連の仕事が最終段階にはいってそうだから(女性37歳・福岡県)
2位 希望的観測	23.2	21.5	25.8	-4.3	良くなって欲しいし、良くなると思うことで実際になるのではないかと(男性26歳・宮城県) 良くなると思わないと日々の暮らしもやっていけない(女性42歳・香川県)
3位 景気が上昇	17.3	19.4	14.2	+5.2	ここ数年良くなってきているので、それが続くと思う(男性49歳・岐阜県) 世間の空気が少々昔のバブル期を思い起こさせる傾向に感じられるため(女性44歳・静岡県)
4位 現政権への期待	5.6	8.1	2.1	+5.9	そろそろアベノミクスの成果が顕著に現れても良からう(男性49歳・石川県) 現政権のもと、安定が期待できる(女性36歳・福岡県)
5位 消費増税前の駆け込み需要	5.3	4.8	6.0	-1.2	増税までは良くなるが、それ以降は減速。平均すると総じて良い(男性37歳・新潟県) 消費税が上がる前に駆け込みで家など大きな買い物をする人が多いから(女性34歳・香川県)

(%) (pt)

「悪くなる」と思う理由

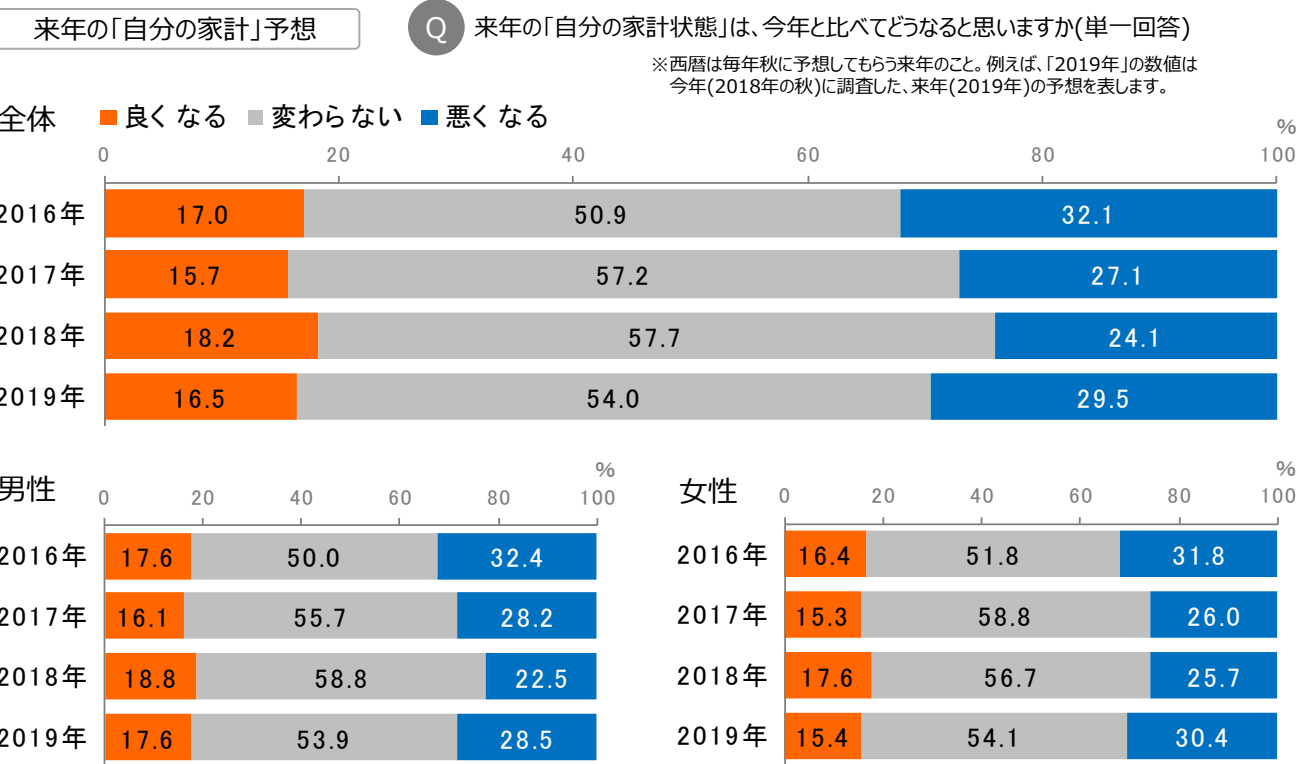
※自由回答を集計したトップ5、%は「悪くなる」と回答した人ベースで算出 (全体1,032人 男性525人 女性507人)

	全体	男性	女性	男一女	理由の具体例
1位 消費税率アップ	40.1	39.6	40.6	-1.0	消費増税前に消費は一時的に増えると思うが、10月以降一気に落ち込みそう(男性32歳・広島県) 賞金は上がらないのに、消費税が上がり使わないといけないお金は多くなる(女性49歳・大阪府)
2位 好景気の実感のなさ	13.6	14.7	12.4	+2.2	身近では景気がよくなった実感が無く、このままでは良くなると思えない(男性34歳・静岡県) 多くの中小企業などに勤める人たちは景気の恩恵を受けてない(女性49歳・福岡県)
3位 国内の政治・政権不信	11.5	15.2	7.7	+7.5	政府、日銀が無茶な政策を続けているから(男性46歳・広島県) 庶民の生活現状を知らない政治では改革ができない(女性54歳・岐阜県)
4位 物価が上昇	11.0	8.6	13.6	-5.0	原油などが値上がりしているため、色んな物の価格が上がり消費が鈍りそう(男性38歳・広島県) スーパーで商品ががどンドン小さくなったり、価格が上がったりしている(女性37歳・神奈川県)
5位 災害や異常気象	8.8	4.0	13.8	-9.8	自然災害が多数発生しており、景気に影響がでると思うため(男性44歳・愛知県) 災害等が続くそう。今年も多かったので作物に悪影響があると思う(女性63歳・北海道)

(%) (pt)

「自分の家計」予想も「悪くなる」が増加。理由は「収入額が増加しない・減少」

- 「自分の家計」予想も、「世の中の景気」予想と同様、「悪くなる」が2019年に前回より5.4ptの増加に転じました。
- 「悪くなる」の予想理由の1位は「収入額が増加しない・減少」(31.2%)でした。残業規制の流れや景況感の悪化から、来年の自分の収入に不安を感じる人が少なくないようです。
- 「良くなる」の予想理由では、1位が「給料などの収入額が増加」(31.3%)となり、「悪くなる」予想理由と対照的な結果でした。企業規模や業種・職種によって、収入の増減が分かれている様子がうかがえます。



「良くなる」と思う理由

※自由回答を集計したトップ5、%は「良くなる」と回答した人ベースで算出 (全体645人 男性342人 女性303人)

	全体	男性	女性	男-女	理由の具体例
1位 給料などの収入額が増加	31.3	37.1	24.8	+12.4	業務が長期的に上向きで賞与や給与に還元される量が年々増加している(男性40歳・宮城県) 正社員になるので収入がよくなるから(女性53歳・北海道)
2位 就職などで収入源が増加	22.8	16.4	30.0	-13.7	資格を取った場合、それを活かして仕事に長期に就くと思う(男性61歳・福岡県) 育児休業から仕事復帰をしてまたダブルインカムに戻る(女性31歳・岡山県)
3位 今年より出費が減少	15.0	10.5	20.1	-9.6	子供が独立して負担が減る(男性59歳・静岡県) 家電などの家庭での大きな出費もひと段落したため(女性30歳・東京都)
4位 希望的観測	7.3	5.8	8.9	-3.1	良くなると思えばそうなる(男性30歳・福岡県) ずっと低迷しているので、そう思いたい(女性41歳・宮城県)
5位 節約や家計管理を実践	4.2	3.8	4.6	-0.8	最近家計簿をつけ始めた(男性21歳・愛知県) 2018年の無駄使いを見直して行く(女性56歳・香川県)

(%) (pt)

「悪くなる」と思う理由

※自由回答を集計したトップ5、%は「悪くなる」と回答した人ベースで算出 (全体1,149人 男性552人 女性597人)

	全体	男性	女性	男-女	理由の具体例
1位 収入額が増加しない・減少	31.2	34.1	28.6	+5.4	残業規制で収入が減ると思う(男性44歳・岐阜県) 不景気で暇だからパートのシフトが減らされている(女性44歳・大阪府)
2位 支出が増加	24.4	19.0	29.3	-10.3	子供の高校入学による出費や通学費、塾の費用(男性54歳・宮城県) 家族に高齢者がいるので、医療費の出費は年を経るごとに増え続ける(女性59歳・静岡県)
3位 消費税などの増税	16.7	18.5	15.1	+3.4	消費税負担や社会保険などの増税が考えられるので(男性34歳・広島県) 今の8%でもきついのになら10%に上がったならあまり買い物が出来なくなる(女性54歳・福岡県)
4位 退職・休業で収入源が減少	8.0	5.4	10.4	-5.0	定年退職し、今年は退職金、失業給付がもらえたが、来年はない(男性60歳・香川県) 育休手当が終わり、専業主婦になるので(女性27歳・広島県)
5位 物価が上昇	7.6	7.2	7.9	-0.6	石油価格の上昇による運送費、電気代等の料金の値上がり(男性65歳・広島県) 日用品・食品など必要商品の値上げで、生活が苦しくなる(女性43歳・愛知県)

(%) (pt)

世の中の変化が来年「多くなる」が優勢。変化内容は「異常気象・災害」がトップ

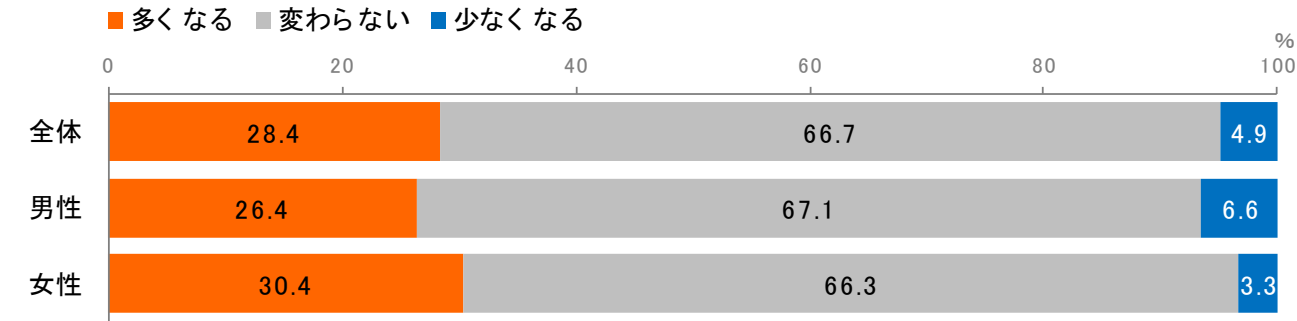
- 来年、世の中のことです「変わった」と感じる事が、今年と比べて「多くなる」と予想した人が28.4%で、「少なくなる」の4.9%を大きく上回りました。
- 「多くなる」と答えた人に、何に関する変化なのかを自由回答してもらったと、1位に「異常気象・災害」が挙がりました。続いて、2位「新元号・平成の終わり」、3位「消費税などの増税」、4位「東京オリンピック・パラリンピックに向けた人や街の活気」となります。

来年の「世の中の変化」予想



来年、あなたから見た世の中のことです「変わった」と感じる事は、今年と比べて多くなると思いますか。(単一回答)

※2018年調査(2019年予想)



来年多くなるのは、〇〇に関する変化

※自由回答を集計したトップ5、%は「多くなる」と回答した人ベースで算出
(全体1,108人 男性511人 女性597人)

	全体	男性	女性	男-女	変化の具体例
1位 異常気象・災害	23.7	20.5	26.5	-5.9	先日の台風時の計画運休のように無理せず安全性が優先されるようになる(男性61歳・香川県) 今までに経験のない災害が増えるといわれているので、来年もそうなる(女性54歳・大阪府)
2位 新元号・平成の終わり	13.0	8.8	16.6	-7.8	年号が変わることもあり、それに合わせてイベントや休日など変化しそう(男性27歳・東京都) 年号が変わって何事にも新しさが求められると思う(女性47歳・石川県)
3位 消費税などの増税	8.7	9.6	7.9	+1.7	消費税関係で、急速に電子マネーの普及が進みそう(男性39歳・北海道) 消費税率の引き上げや法律が変わり様々な影響が出てきそうなのがする(女性63歳・宮城県)
4位 東京オリンピック・パラリンピック に向けた人や街の活気	7.8	6.1	9.2	-3.1	五輪を前にして便利な機能や多様な考えかたが日本に入ってくると思う(男性32歳・広島県) 翌年のオリンピックに向けて、街中も国民の意識も変わると思う(女性53歳・東京都)
5位 AIの進歩	4.5	5.7	3.5	+2.2	最近の技術の進歩(特にAI)の速さは一年で社会をがらっとかえてしまう(男性31歳・静岡県) 今は水面下にあるいろんなこと、AI医療とかが飛躍的に変わり進化する(女性65歳・神奈川県)

(%) (pt)

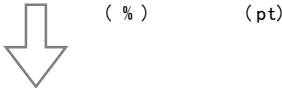
来年始めたいこと、男は【金かせぎ】、女は【体みがき】

- 2019年に「思い切って始めたいこと」がある人は30.8%で、「思い切ってやめたいこと」がある20.6%を上回りました。
- 来年始めたいこととしては、「運動・体操・筋トレ」「貯蓄」「趣味・習い事」が上位に挙げられます。男女差が大きい項目に着目すると、男性は「副業」「投資・資産運用」といった【金かせぎ】、女性は「ダイエット・食事制限」「運動・体操・筋トレ」といった【体みがき】に向かっています。いずれも生活していくための自力を高めたいという願望がうかがえます。
- 来年やめたいことでは、「無駄遣い・衝動買い」「食べ過ぎ・飲み過ぎ」「無理しての人付き合い」が上位で、特に女性で顕著。無駄や無理をなくして合理的に暮らしたいと感じているようです。

来年始めたいことが“ある”

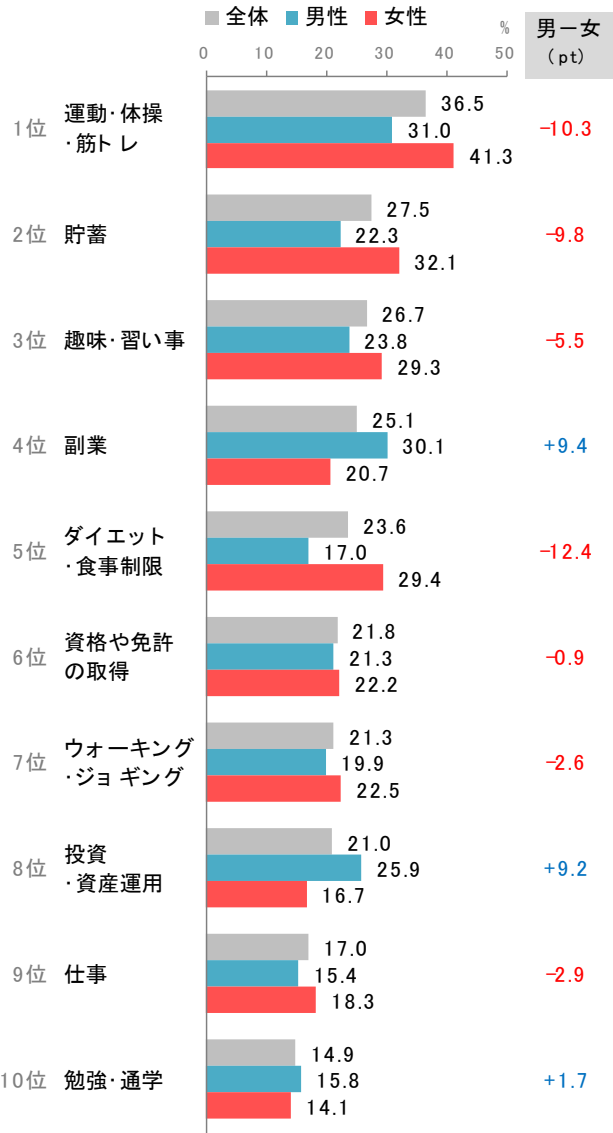
Q 来年、「思い切って始めてみたいこと」はありますか(単一回答)
※2018年調査(2019年意向)

全体	男性	女性	男-女
30.8	29.1	32.6	-3.5



来年始めたいこと(上位10位)

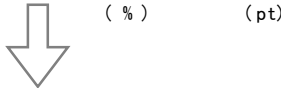
Q 来年、「思い切って始めてみたいこと」は何ですか(複数回答)
※2018年調査(2019年意向)
※始めたいことがある人へのみ質問(全体1,203人 男性564人 女性639人)
※数値は、始めたいことがある人ベースで算出
※全24行動のうち、上位10位までを全体を基準にランキング



来年やめたいことが“ある”

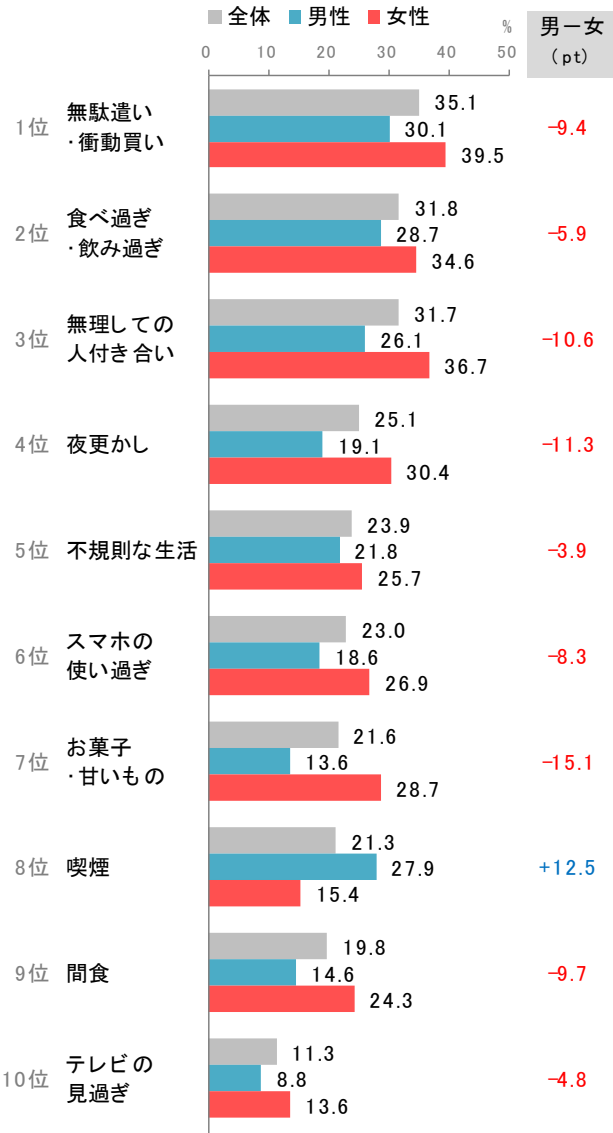
Q 来年、「思い切ってやめたいこと」はありますか(単一回答)
※2018年調査(2019年意向)

全体	男性	女性	男-女
20.6	19.4	21.8	-2.4



来年やめたいこと(上位10位)

Q 来年、「思い切ってやめたいこと」は何ですか(複数回答)
※2018年調査(2019年意向)
※やめたいことがある人へのみ質問(全体804人 男性376人 女性428人)
※数値は、やめたいことがある人ベースで算出
※全24行動のうち、上位10位までを全体を基準にランキング



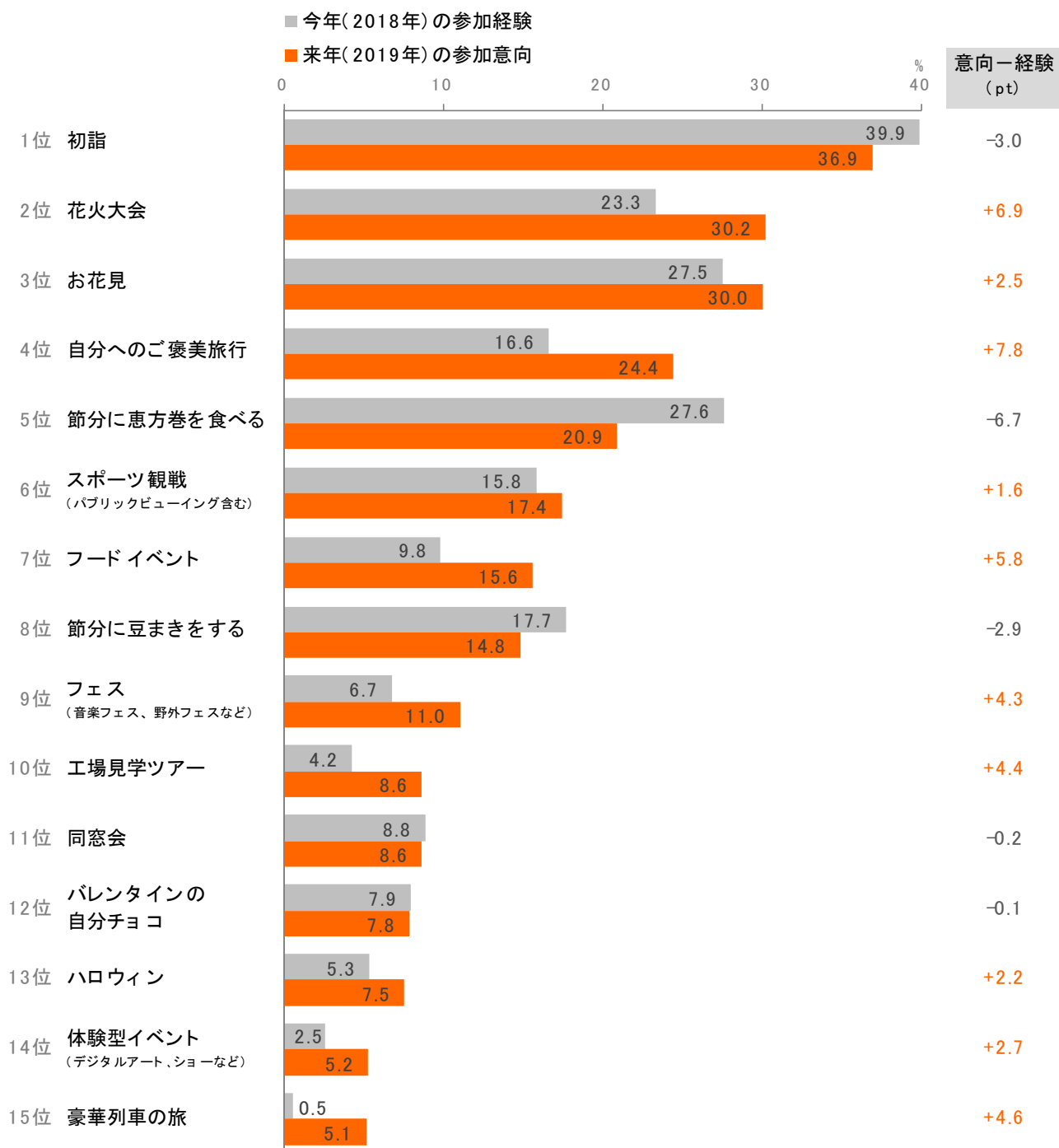
「初詣」「花火大会」がトップ2。来年増える可能性では「自分へのご褒美旅行」が有力

- 2019年に参加したいイベントでは、「初詣」(36.9%)、「花火大会」(30.2%)がトップ2です。
- 2019年参加意向と2018年参加経験の差を、来年参加者が増える可能性と捉えると、上位は「自分へのご褒美旅行」(+7.8pt)、「花火大会」(+6.9pt)、「フードイベント」(+5.8pt)となります。非日常性と五感での体感性の高いイベントに生活者が惹かれているようです。
- 上記の差のマイナス分が大きいイベントは「節分に恵方巻を食べる」(-6.7pt)です。

今年参加した & 来年参加したいイベント(上位15位)

Q 今年(2018年)、行ったり、参加したものはどれですか。
来年(2019年)、行ったり、参加したいと思うものはどれですか。(ともに複数回答)

※全28行動のうち、上位15位までを2019年意向を基準にランキング



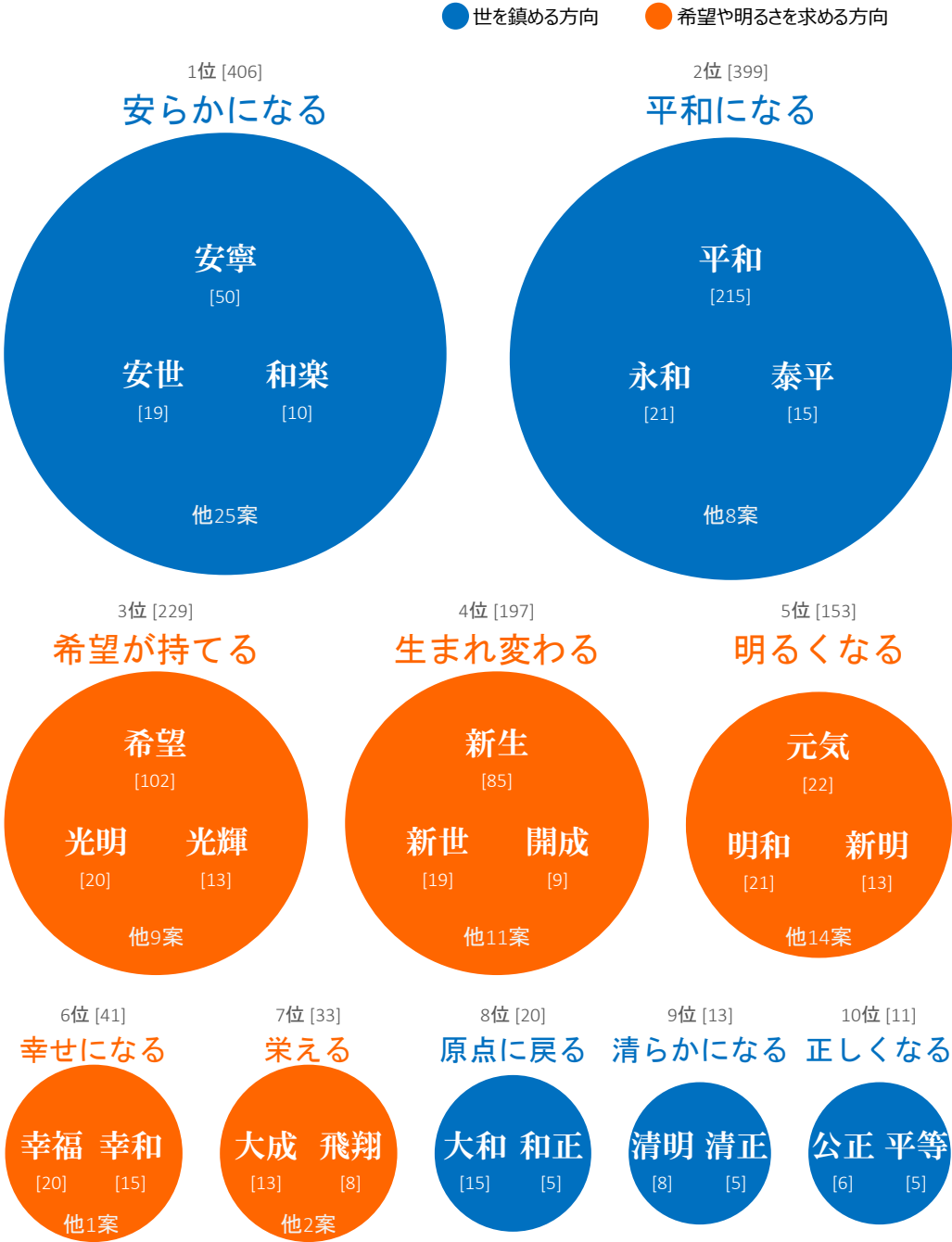
生活者の期待・願いは、「安らかになる」「平和になる」といった世を鎮める方向に

- 新元号案そのものとしては、「平和」(215人)、「希望」(102人)、「新生」(85人)がトップ3となりました。
- 新元号案を意味の近さでまとめると、1位・2位は「安らかになる」(406人)、「平和になる」(399人)という世を鎮める方向の期待・願いとなりました。3位～7位には、「希望が持てる」(229人)、「生まれ変わる」(197人)に代表されるように、より積極的に希望や明るさを求める方向のものが並びます。

生活者が考える新元号案

Q もしあなたが新元号の選考委員に国から任命されたとしたら、どんな元号をつけたいですか？
この国全体の行く末への期待や願いを込めて、新元号のあなたの案を、漢字 2 文字でお考えください。
また、あなたが考えた新元号に込めた期待や願いを、具体的に教えて下さい。(自由回答)

※回答者3,594人からの全1,732の元号案のうち、5人以上が挙げた案を対象として、意味の近さでまとめた(考案理由の自由回答も参考にして)。
※上位10位グループまでを表示。
※円内の漢字が新元号案、円外のフレーズが意味のまとまりを示す。[]内は回答者数。



“生活気分” 調査概要

生活者が予想する来年の景況感や生活気分、行動意欲などを時系列で比較する調査。初回(2016年予想)の2015年11月の調査以来、毎年秋に実施し、今回(2019年予想)は4回目となります。

(2019年予想)

調査地域 全国11都市

首都40 k m圏、名古屋40 k m圏、阪神30 k m圏、
札幌20 k m圏、仙台20 k m圏、新潟30 k m圏、
金沢20 k m圏、静岡20 k m圏、広島20 k m圏、
高松30 k m圏、福岡30 k m圏

調査手法 インターネット調査

調査対象 20～69歳の男女 3,900人
男性1,938人 女性1,962人

調査時期 2018年10月4日(木)～9日(火)

企画分析 博報堂生活総合研究所

実査集計 株式会社 H.M.マーケティングリサーチ

(2018年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人

男性1,935人 女性1,965人

調査時期 2017年10月5日(木)～10日(火)

(2017年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人

男性1,941人 女性1,959人

調査時期 2016年10月6日(木)～11日(火)

(2016年予想)

調査対象 20～69歳の男女 3,900人

男性1,939人 女性1,961人

調査時期 2016年11月5日(木)～9日(月)

※2016年予想・2017年予想・2018年予想はいずれも、
調査対象、調査時期以外の調査設計は2019年予想と同じ

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社博報堂 広報室 江渡・玉 TEL:03-6441-6161